

槐

かい

岡井省二創刊

令和3年1月号

令和三年一月一日発行 第三十一巻第一号 通巻第三五五号（毎月一回）日発行
平成三年九月十八日第三種郵便物認可



遊 び 心

高橋将夫

赤い羽根善意に針が付いてをる
芋の葉に遊び心の露の玉
風神の遊すまびなりけり鱚雲
夢の世の現の時代祭かな

A I は解決できぬ秋思かな
傾城を思ひ牡丹の根分かな

秋刀魚焼く煙黄泉から流れくる

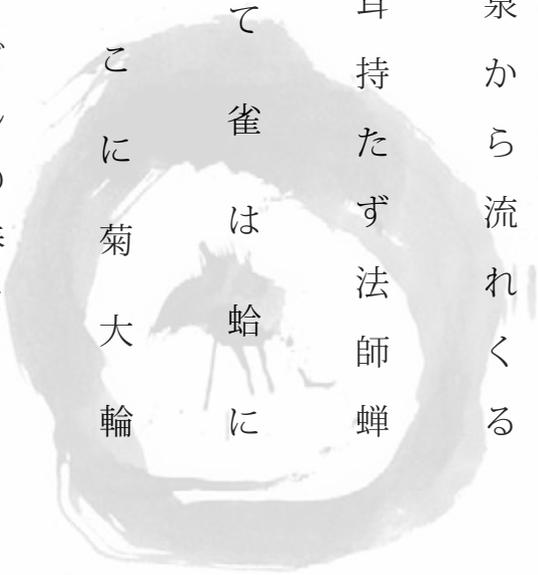
鳴くだけで聞く耳持たず法師蟬

欲望が消えて雀は蛤に

人間の尊厳ここに菊大輪

「槐」第二十八回全国大会

過去と未来リバーシブルの春コート



龍の玉

雨村敏子

白色は始まりのいろ鏡餅
橙の日おもての色日うらまで
文旦や海を抱きたる山の影
灌佛会土が小山に積まれある
土佐沖にまんぼう浮かぶ春日かな
花月夜海へ入りゆく象使ひ
夏兆す風の波動のきらきらす
いち日を使ひ切つたり藤の花
水羊羹の魚美しく葉にのせて
月草や幼なの声の透きとほる

特別作品

咲き終へて一茎強し文字摺草
たらちねの乳のあたりや盆の朝
衣被をんなに生れし冥加なり
獅子柚子のこれ滅相な面テかな
毒茸と思しき色を誉めそやす
日吸うて実りの色に新小豆
行く秋や飽かず日の差すこの道を
黄落に塚かうかうと染まりけり
枯れのいろ枯れの呼吸の美しきかな
龍の玉どこから聞こゆ子守唄

槐集

高橋将夫選

四万十の波動きだす神送り
枚方 井上 静子

菊人形の顔にありけり人生観
冬の蝶石に降りたる安堵かな
枯蠟螂草にすがりて沈みける
夕暮れの梢火の匂ひひろがりぬ
足もとの花野が浄土一葉落つ

大阪 平野 多聞

大花野 富士は裾野を司る
どことなく緩む時空や雁の文字
秋の声竹林ぬけて来たりけり
バーチャルの月面歩行太閤忌
過ぎし日をやがて来る日を照らす月

藤田美耶子

十月の風運びくる旅心
石仏の螺旋となりぬ木の実かな
秋の蝶秘密の園へ弧を描く
美しき風の踊り場大花野

朝霧の中に入り込む太極拳
枚方 中島 昌子

古都の秋拝む佛と見る佛
曼珠沙華わが胸衿に飛火して
案山子撮る男案山子に似てきたる
絵てがみの余白に聞こゆ虫の声
秋色をリユツクサクに詰めてをる

守口 中西 厚子

月光の影踊りをる旅の池
招かれざる客の後ろに夜会草
風変わる秋は曆を知つてゐる
人の世を印象操作する秋雨^{しゅうりゅう}
忘るるも捨つるも大事鳥渡る

枚方 阪倉 孝子

風神の大笑ひして木の実降る
数珠玉や鈍行に揺れ遊戯の地へ
螻蛄鳴くや転がるコイン追ひかけて
月光を身ごもりし魔女小町なる